

平成16年度 企画展

# 発掘調査速報展2004

2004.7.27～9.5



新城下原第二遺跡（宜野湾市）  
の爪形文土器

文化講座

2004年8月14日（土）

午後2時～4時

【発掘調査報告】

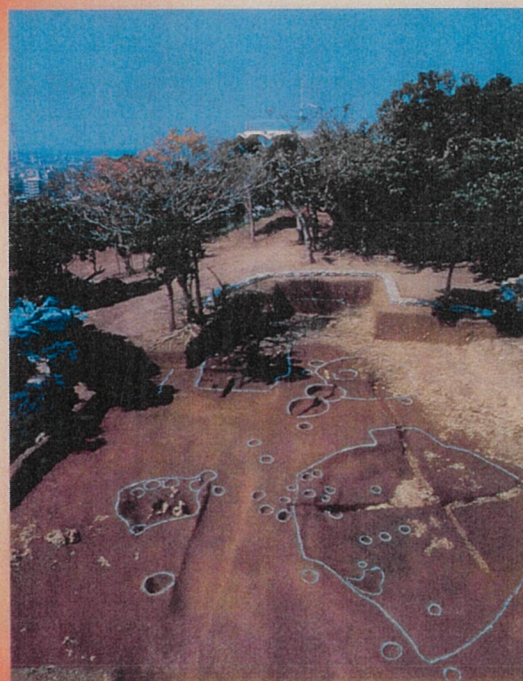
新城下原第二遺跡—片桐千亜紀

大山富盛原第二遺跡—瀬戸哲也

首里城跡黄金御殿 —羽方 誠

首里城跡真珠道 —知念隆博

戦争遺跡分布調査 —山本正昭



大山富盛原第二遺跡  
（宜野湾市）

沖縄県立埋蔵文化財センター

西原町字上原193-7

TEL 098-835-8752



## もくじ

ごあいさつ	1
平成15年度に発掘調査を実施した遺跡分布図	2
新城下原第二遺跡	4
沖縄最古の土器「爪形文土器」	6
奄美・沖縄の爪形文土器出土遺跡分布	7
大山富盛原第二遺跡	8
首里城跡「黄金御殿」	10
首里城跡「真珠道」	12
御茶屋御殿跡	14
アブ遺跡ほか	15
ピンフ嶺のトーチカほか	16
発掘調査のきっかけ（動機）とは	18

## 凡例

1. 本書は、沖縄県立埋蔵文化財センターの企画展「発掘調査速報展2004」を補完するものとして編集した。
2. 本書の掲載順序は、展示の順路に沿っている。
3. 許可なく本書の複製および転載、複写禁ずる。

# ごあいさつ

沖縄県内には、現在およそ2,500件の遺跡（埋蔵文化財）が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、これらの埋蔵文化財について発掘調査や分布調査を実施し、調査研究をとおして先人が残した貴重な文化遺産の保存と活用を図っています。

具体的には、過去の集落跡や貝塚、グスク、墓など、人々の生活の痕跡が残っている遺跡を、考古学的な手法を用いて発掘調査をおこない、その成果を分析・研究して沖縄の歴史や文化を明らかにしていきます。

また、ひととおりの調査研究が終了した成果物、すなわち土器や石器、貝製品、骨製品、陶磁器などの出土遺物および記録類（写真や図面、調査報告書などの資料）については、当埋蔵文化財センターに収蔵保管すると同時に公開をおこなっています。ただ、発掘調査から調査報告書を刊行して公開するまで数年を要することがあります。

そこで当埋蔵文化財センターでは、調査のあらましや主な出土遺物を公開し、早い時期に多くの方々に見ていただきたいと考え、前年度に実施した調査の成果を展示公開する「発掘調査速報展」を毎年おこなっています。

今回の「発掘調査速報展2004」では、2003（平成15）年度に調査を実施した新城下原第二遺跡や大山富盛原第二遺跡、首里城跡（黄金御殿）、首里城跡（真珠道）、御茶屋御殿跡の主な調査成果について、出土遺物や写真パネル、解説パネルであらましを紹介しております。また、新石垣空港建設予定地内遺跡分布調査や戦争遺跡詳細分布調査（宮古諸島）の成果についてもパネルで紹介をしております。

この速報展をとおして、多くの方々が遺跡や遺物などに接し、昔の人たちの生活に想いを馳せるとともに、沖縄の歴史と文化に関する知識とそれを支える埋蔵文化財の重要性への認識を深め、当埋蔵文化財センターの業務と役割を御理解いただければ幸いです。

2004（平成16）年7月27日

沖縄県立埋蔵文化財センター  
所長 安里 嗣淳

# 平成15年度に発掘調査を実施した遺跡分布図

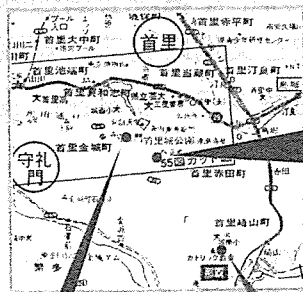
## 沖縄本島



新城下原第二遺跡



大山高盛原第二遺跡



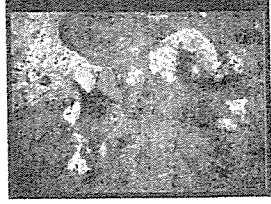
首里城跡「黄金御殿」



首里城跡「真珠道」

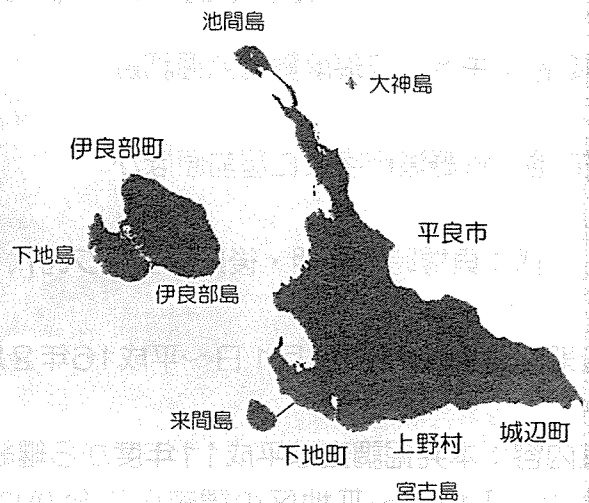
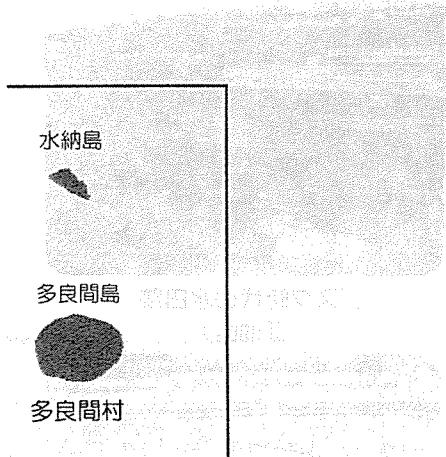


御茶屋御殿跡



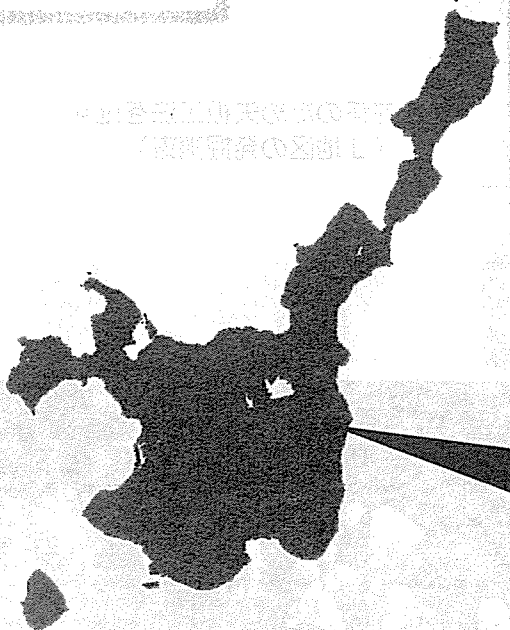


# 宮古諸島



## 戦争遺跡詳細分布調査

# 石垣島



あらぐすくしちやばるだいにいせき

# 新城下原第二遺跡

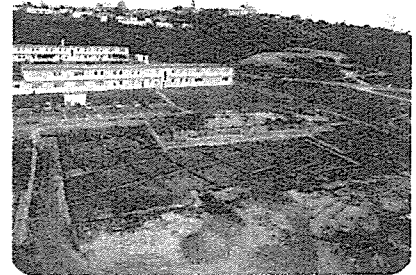
事業名：キャンプ瑞慶覧内発掘調査

所在地：宜野湾市字安仁屋前原ほか

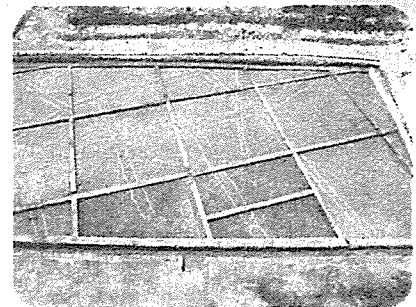
時代：貝塚時代前期・後期・グスク時代

調査期間：平成15年4月1日～平成16年2月29日

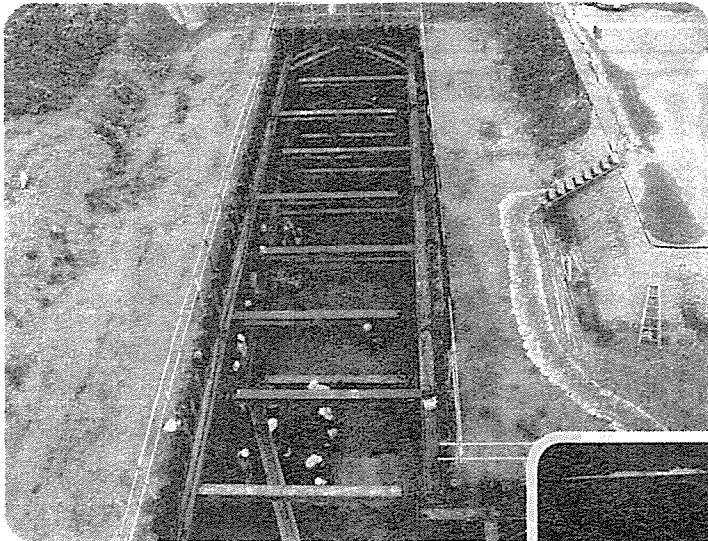
調査内容：本発掘調査は平成11年度から継続している事業で、Ⅰ地区～Ⅲ地区の調査区に分かれています。今年度は最終年度としてⅢ地区（貝塚時代後期～グスク時代）の発掘調査及びⅡ地区下層（貝塚時代前期）の発掘調査を行いました。Ⅲ地区からは水田跡と考えられる遺構が検出され、それに伴って木杭などが発見されました。Ⅱ地区下層からは爪形文土器や骨製品・貝製品、多量の獣骨・貝類が出土しました。



グスク時代の水田跡  
(Ⅲ地区)



白い線が水田の畦道



安全対策のため矢板工法を施す  
(Ⅱ地区の発掘調査)

Ⅱ地区の発掘状況

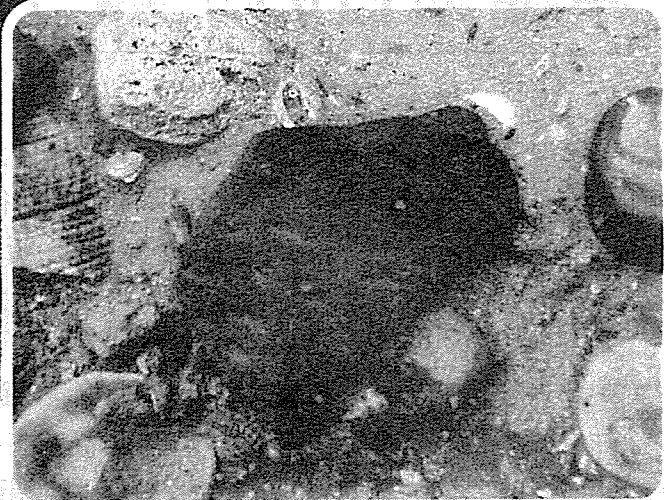




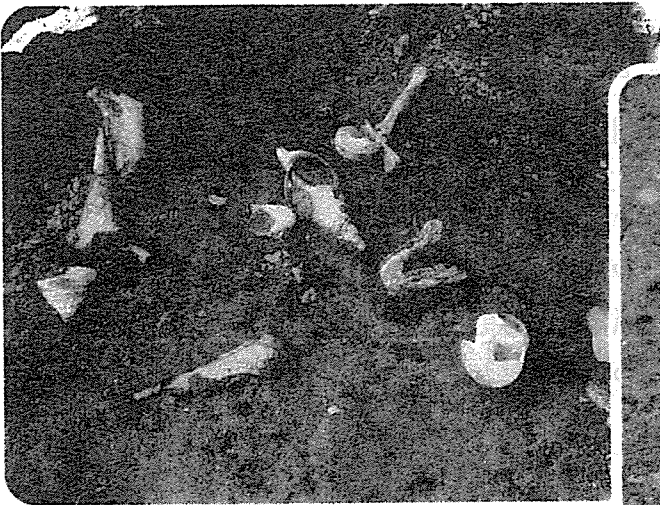
新城下原第二遺跡



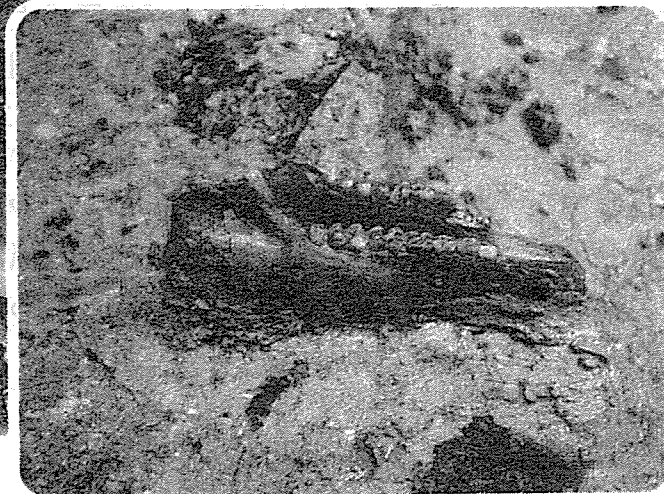
遺物の検出状況（Ⅱ地区）



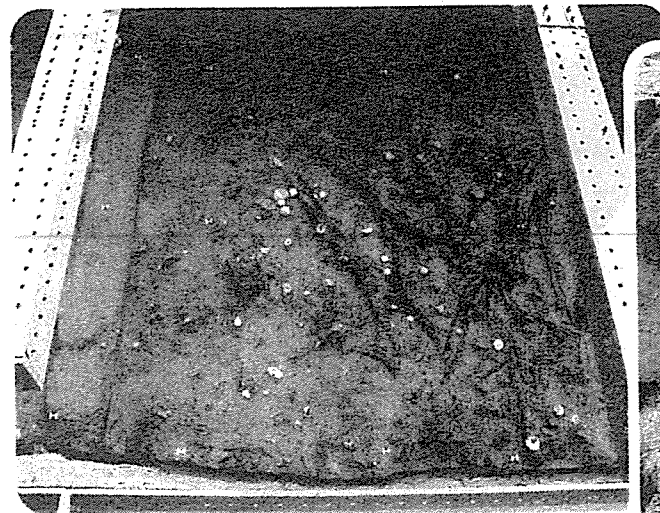
爪形文土器の出土状況（Ⅱ地区）



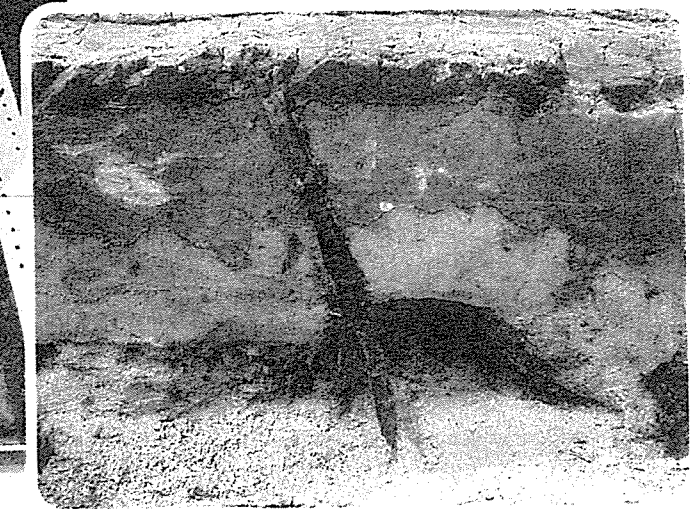
イノシシ骨・貝類の一括出土（Ⅱ地区）



イノシシの上顎骨（Ⅱ地区）



木の根などの出土状況（Ⅱ地区）



水田の畦に突き刺さった木杭（Ⅲ地区）

おきなわさいこ      どき      つめがたもんどき

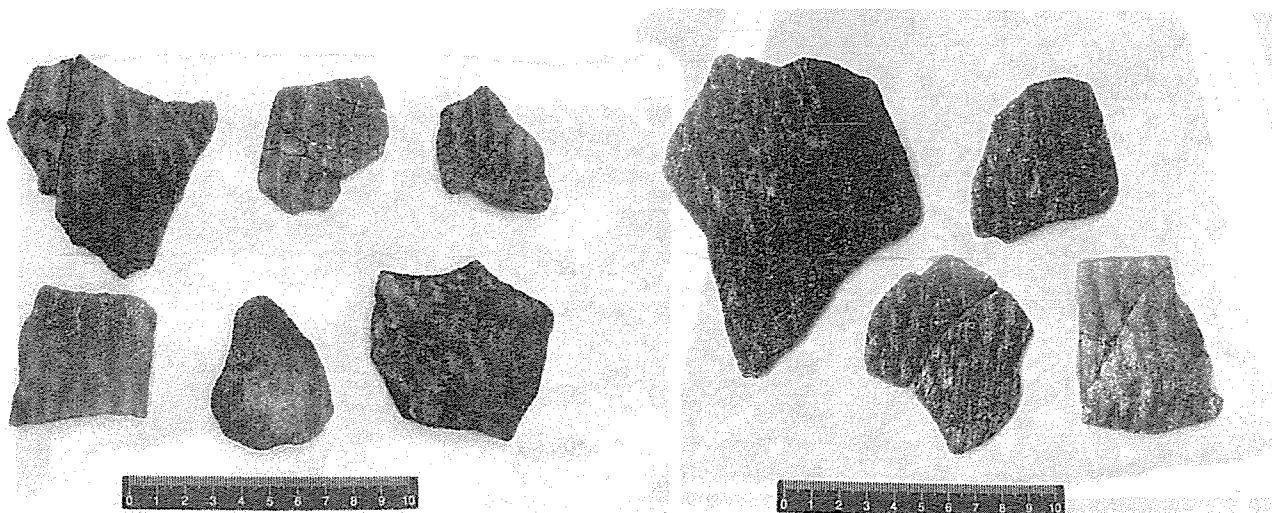
# 沖縄最古の土器 「爪形文土器」

新城下原第二遺跡（宜野湾市）から、現時点で沖縄最古の土器である爪形文土器が数多く見つかりました。これまで渡具知東原遺跡（読谷村）や野国貝塚群B地点（嘉手納町）をはじめ、沖縄諸島で11ヶ所、奄美諸島で5ヶ所の遺跡（右図参照）から確認されていますが、新城下原第二遺跡のものは野国貝塚群B地点に次いで二番目に多い出土量となっています。

そもそも爪形文土器は、1975年に渡具知東原遺跡の発掘調査によって縄文時代前期（約5,000年前）に属する曾畑式土器を含む地層のさらに下層から見つかり、大きな話題を呼びました。その後の調査研究で、1960年に調査が行われた与那城町のヤブチ洞穴遺跡と、1963年に調査された奄美大島笠利町のヤーヤ洞穴遺跡からすでに見つかったことがわかりました。渡具知東原遺跡の爪形文土器は文様などの特徴から2型式に大別され、それぞれ「ヤブチ式土器」と「東原式土器」と名付けられています。層位的にはヤブチ式土器が下層から出土することから時期的にも古く位置づけられています。ちなみに、放射性炭素年代測定の結果は、ヤブチ式土器の時期がおよそ6,500～7,000年前、東原式土器が約6,000～6,400年前となっています。

新城下原第二遺跡の爪形文土器はほとんどがヤブチ式土器に属するもので、特に野国貝塚群B地点で見つかったもの（第3群土器：爪形文Ⅳ類）に類似しています。より詳しいことについてはこれからの資料分析等で明らかになりますが、沖縄の土器文化の成立を考えるうえで貴重な発見となっています。

## 爪形文土器（ヤブチ式土器）の比較



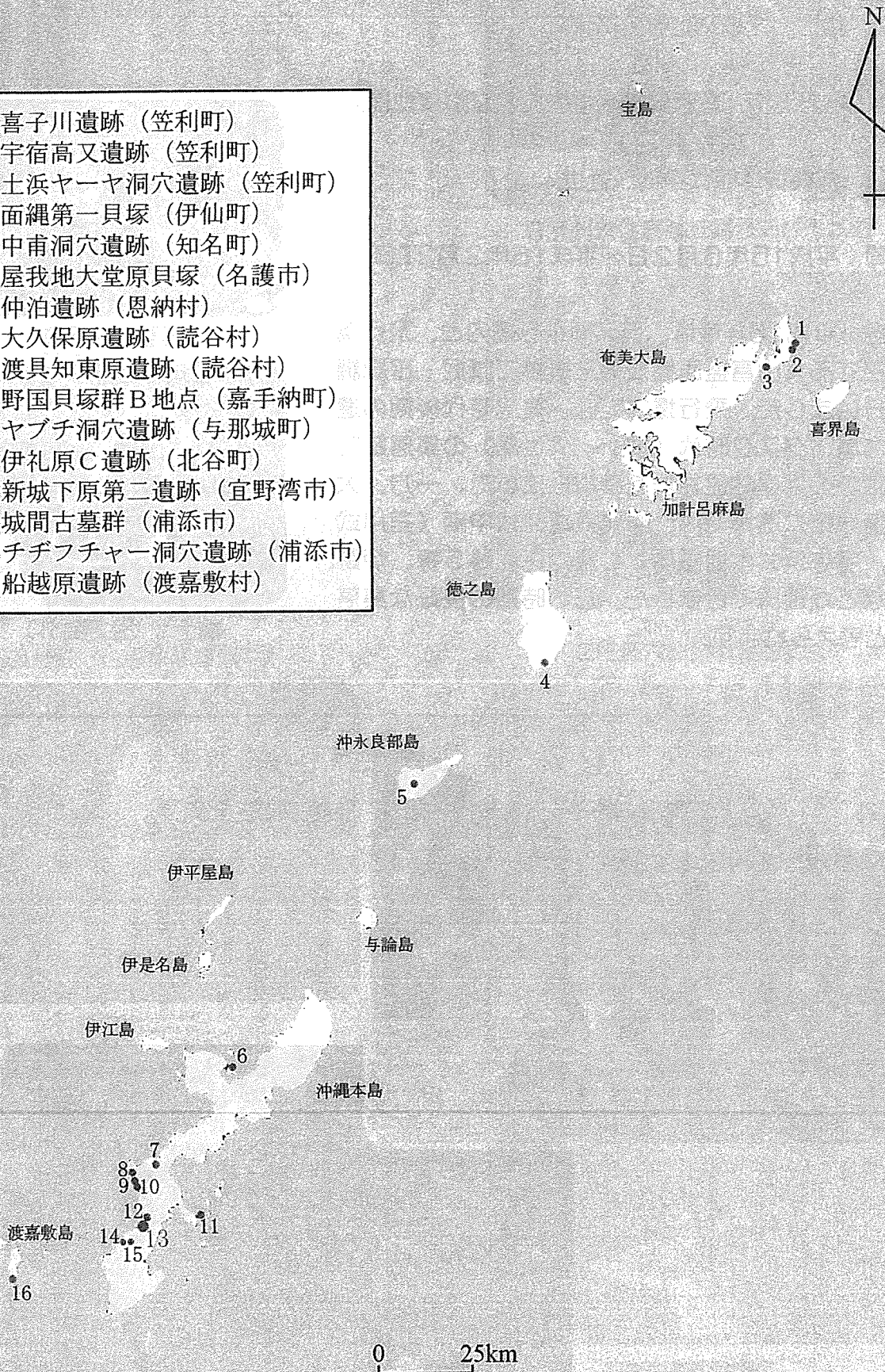
新城下原第二遺跡

野国貝塚群B地点



# 奄美・沖縄の爪形文土器出土遺跡分布

1. 喜子川遺跡 (笠利町)
2. 宇宿高又遺跡 (笠利町)
3. 土浜ヤーヤ洞穴遺跡 (笠利町)
4. 面縄第一貝塚 (伊仙町)
5. 中甫洞穴遺跡 (知名町)
6. 屋我地大堂原貝塚 (名護市)
7. 仲泊遺跡 (恩納村)
8. 大久保原遺跡 (読谷村)
9. 渡具知東原遺跡 (読谷村)
10. 野国貝塚群 B 地点 (嘉手納町)
11. ヤブチ洞穴遺跡 (与那城町)
12. 伊礼原 C 遺跡 (北谷町)
13. 新城下原第二遺跡 (宜野湾市)
14. 城間古墓群 (浦添市)
15. チヂフチャー洞穴遺跡 (浦添市)
16. 船越原遺跡 (渡嘉敷村)



# 大山富盛原第二遺跡

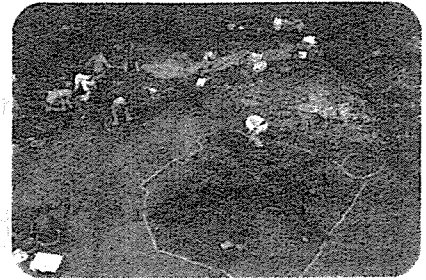
事業名：基地内埋蔵文化財分布調査

所在地：宜野湾市（普天間飛行場内および隣接地域）

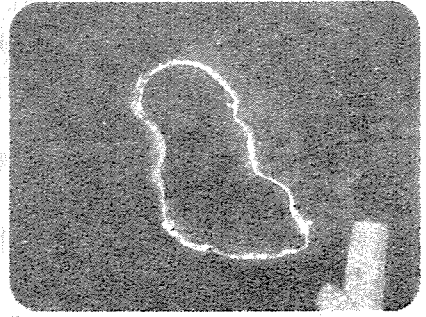
時代：沖縄貝塚時代中期～近世

調査期間：平成15年6月2日～平成16年2月27日

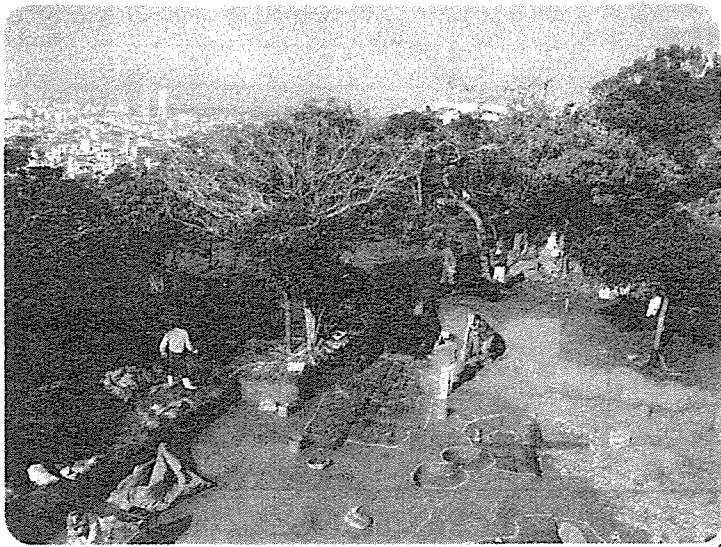
調査内容：平成15年度は、普天間飛行場内と、飛行場に隣接する大山富盛原第二・三遺跡で試掘・確認調査を行いました。飛行場内では、貝塚時代後期の遺物包含層、グスク時代（13～14世紀）の集落跡である数棟の掘建柱建物群を確認しました。一方、大山富盛原第二遺跡では、沖縄貝塚時代中期（室川式土器・宇佐浜式土器主体）の竪穴住居跡5棟、炉跡、土坑などが確認できました。この時期の良好な集落跡だと考えられます。



（林谷3号竪穴住居跡）



焼土1（住居跡外）



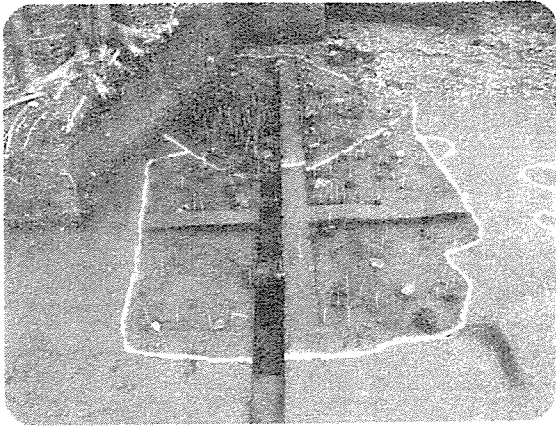
発掘調査区全景



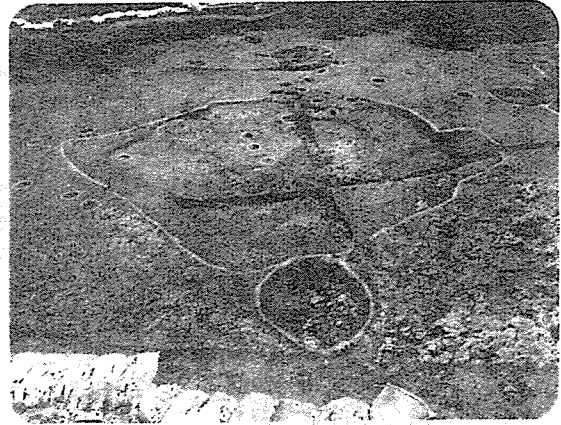
発掘調査の様子



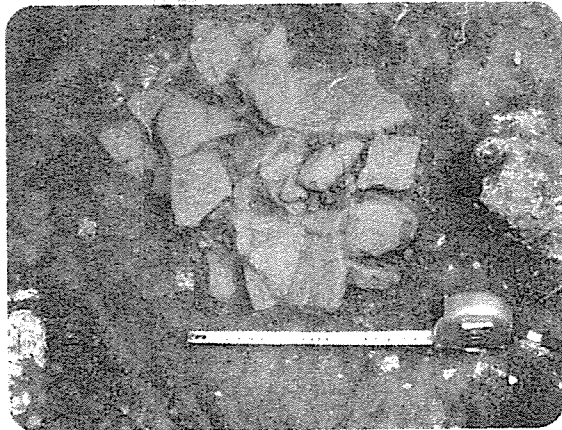
大山富盛原第二遺跡



2号竪穴住居跡と4号竪穴  
住居跡の切り合い関係



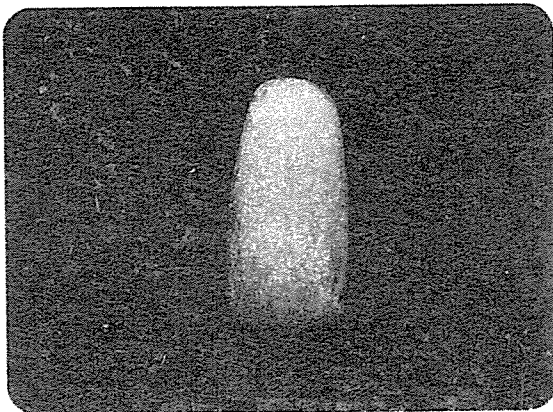
3号竪穴住居跡を掘りあげた状態



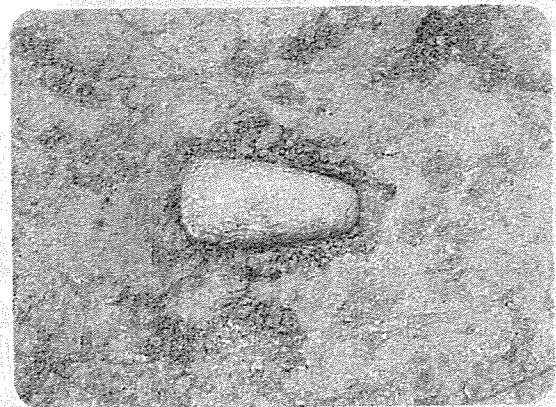
土器の出土状況  
(2号竪穴住居跡床面近く)



土器の出土状況  
(2号竪穴住居跡床面近く)



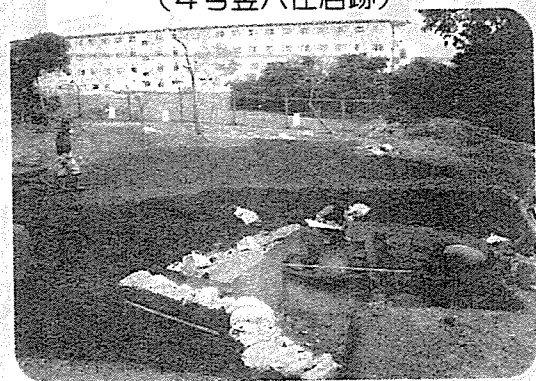
石斧の出土状況  
(3号竪穴住居跡)



石斧の出土状況  
(4号竪穴住居跡)



住居跡の検出作業



埋め戻し作業

しゅりじょうせき 「くがにうどうん」  
首里城跡 「黄金御殿」

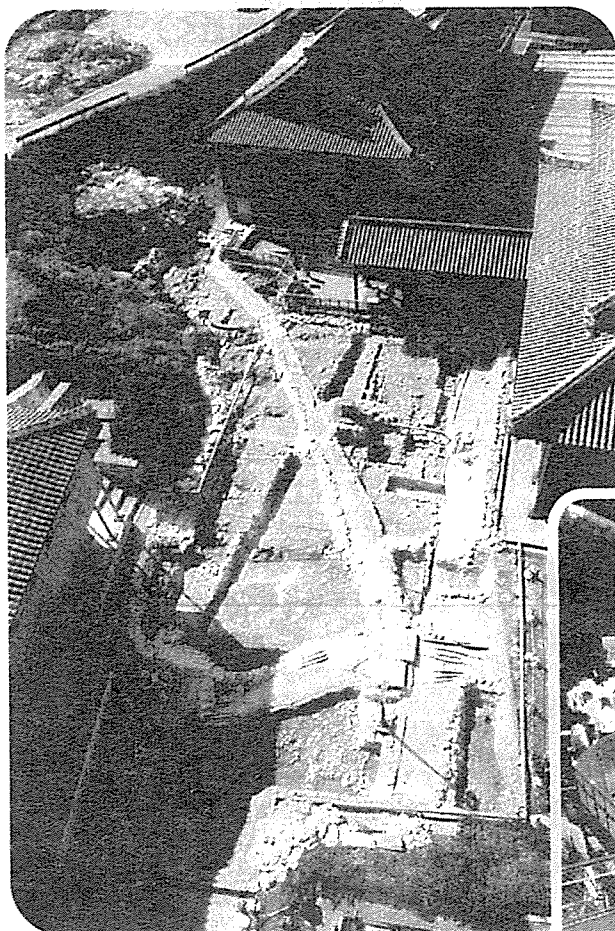
事業名：史跡整備に伴う確認調査

所在地：那覇市首里当蔵町3丁目

時代：グスク時代～近代

調査期間：平成15年6月2日～平成15年12月27日

調査内容：首里城跡では、史跡公園として整備するために、遺構等の確認調査を毎年おこなっています。平成15年度の発掘調査の結果、黄金御殿（国王・王妃の居間や寝室）の建物の礎石（柱をのせる石）、近習詰所（国王への取次ぎ業務を行う近習という人達がいた建物）の石敷きや礎石などがみつかりました。出土品には、屋根瓦（高麗瓦）や中国・日本・タイ産の陶磁器、金属製品、玉類、古銭、骨製鏃、石製硯、ヤコウガイの殻などがあります。



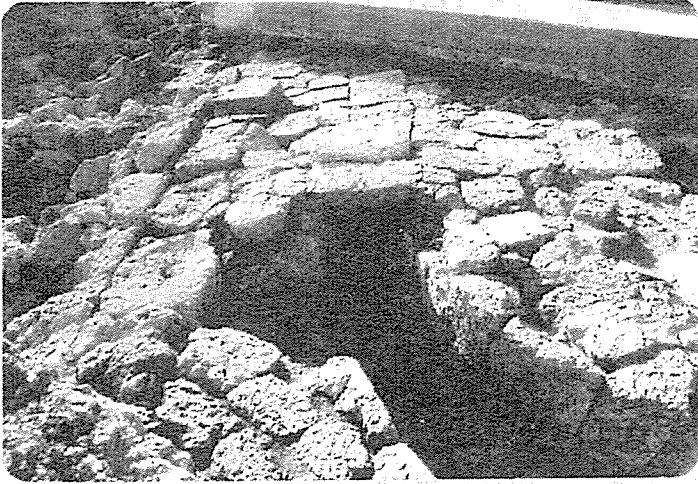
調査区の全景（東側より）



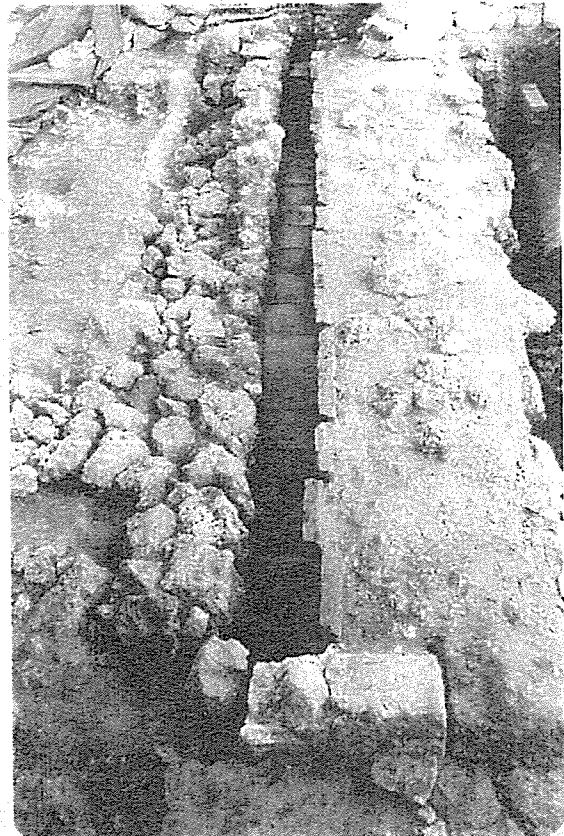
発掘調査のようす



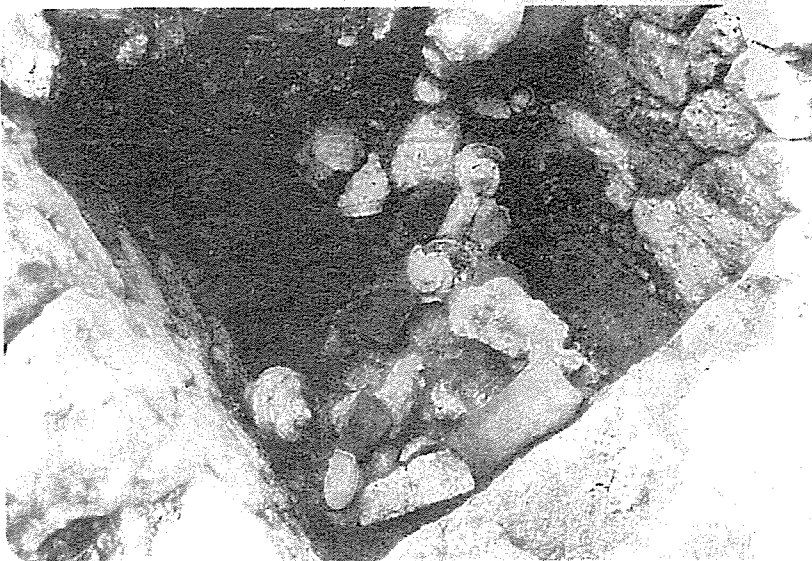
首里城跡「黄金御殿」



近習詰所に伴う排水溝跡



排水溝跡



石組み遺構内の遺物出土状況

しゅりじょうせき「まだまみち」  
首里城跡「真珠道」

事業名：首里城公園整備に伴う確認調査

所在地：那覇市首里当蔵町3丁目

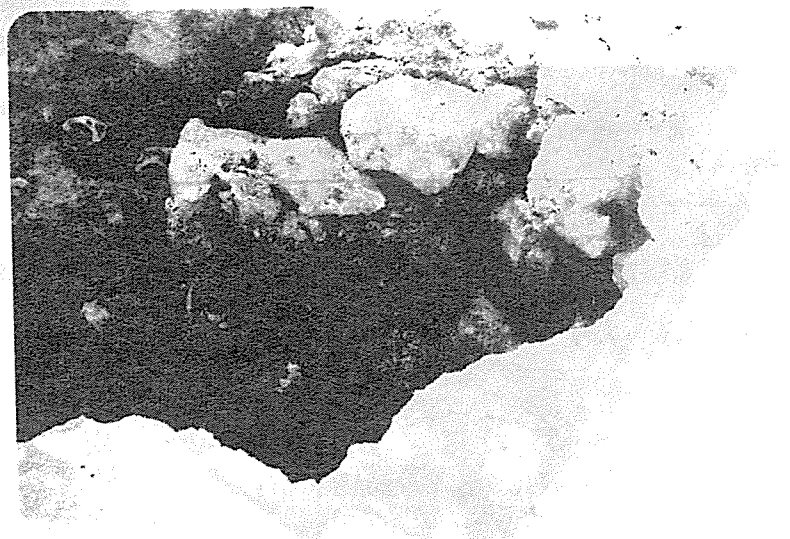
時代：グスク時代～近代

調査期間：平成15年9月16日～平成16年2月27日

調査内容：真珠道地区は、守礼門の東側を起点とし、現在の金城町石畳道と  
おり、真玉橋、石火矢橋、豊見城城下を廻って、那覇港へ至る道路であり、  
主要な軍用道路でした。平成15年度は石畳道検出を目的として、守礼門の南  
側部分を調査しました。その結果、去った沖縄戦及び戦後の工事により破壊  
された部分が多く、明確に遺構として検出したのは、排水溝と考えられる石  
積だけでした。また、石畳の可能性のあるものも検出しましたが、明確では  
ないため、遺構の性格等は平成16年度の調査を踏まえて明らかにする予定で  
す。その他にリュウキュウジカ、リュウキュウムカシキョン等の第四紀に属  
するシカ化石が検出され、旧石器時代の遺跡が発見される可能性があります。

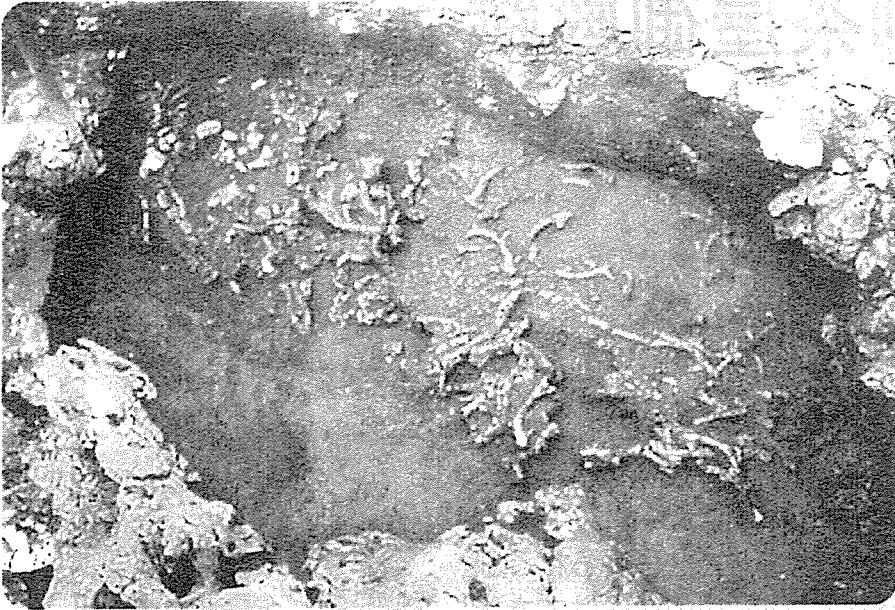


発掘調査区全景

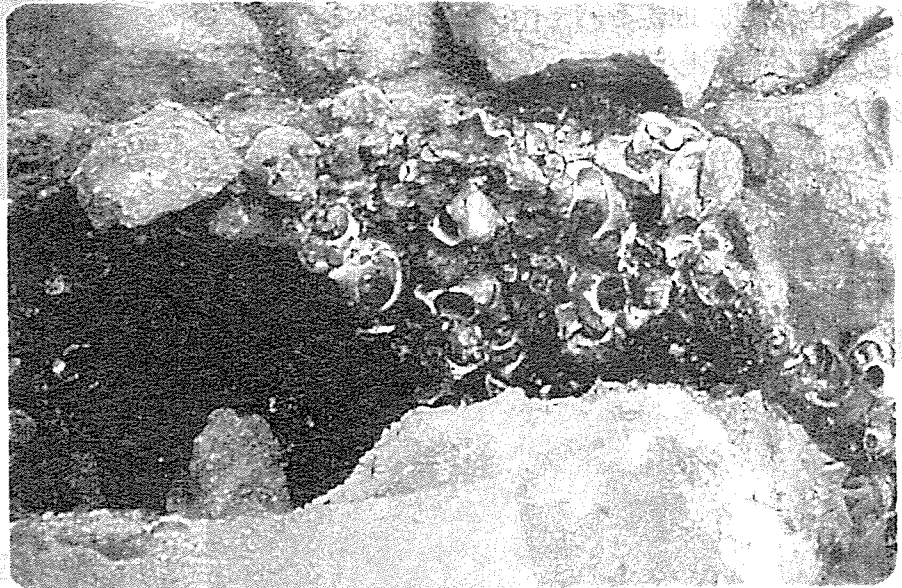


石組み遺構

首里城跡「真珠道」



シカ化石の出土状況



ヤコウガイの出土状況



落ち込みに堆積した遺物



# 御茶屋御殿跡

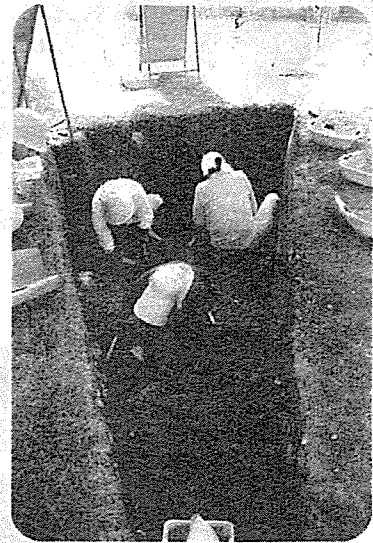
事業名：御茶屋御殿跡遺構確認調査

所在地：那覇市首里崎山町4丁目

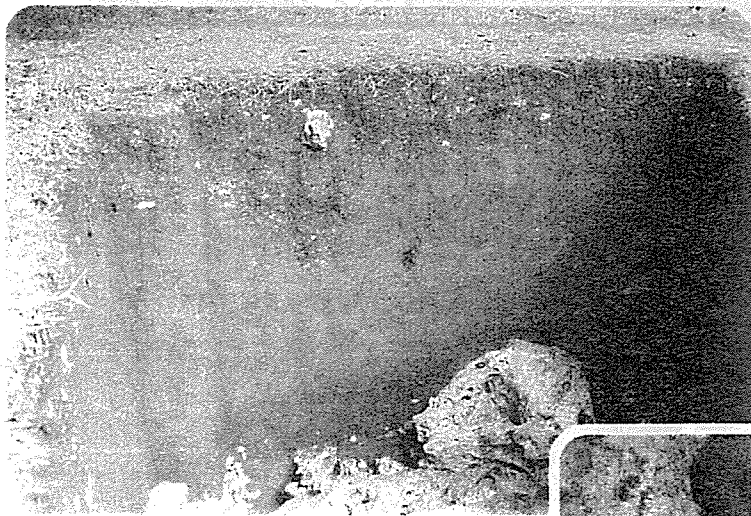
時代：近世～近代

調査期間：平成15年8月1日～平成15年8月29日

調査内容：平成15年度の調査は、1945年米軍撮影の空中写真や絵図を参考に、建物が存在していたと考えられる部分の調査を行いました。その結果、建物跡の検出はできませんでしたが、地表下約1mより白磁や土器等の遺物を含む包含層を確認しました。その層は 御茶屋御殿跡以前に形成されたと考えられることから、御茶屋御殿が創建される以前に何らかの施設があったと思われます。また、東側に位置する既存の石積の延長部を確認するための調査も行いました。



発掘調査のようす



土層壁面（東壁）



陶磁器の出土状況

あぶいせき  
アブ遺跡ほか

事業名：新石垣空港建設予定地内遺跡分布調査

所在地：石垣市白保・盛山

時代：南琉球新石器時代後期・近代

調査期間：2003(H15)年6月9日～20日、12月8日～20日

調査内容：今年度は本調査の最終年度であり、これまで不十分であった場所において、踏査・試掘調査を行いました。そのひとつに、アブ遺跡という周知の遺跡がありますが、遺跡の性格や時期などについて明らかにするため、試掘調査を行いました。その結果、14～15世紀に属する陶磁器や土器などが出土する遺物包含層を一部で確認できました。この遺物包含層の広がりについては小規模な調査のため、明確にできませんでしたが、この時期の集落が近くにあった可能性が考えられます。



盛山御嶽の遠景



アブ遺跡試掘調査のようす



# ピンフ嶺<sup>みね</sup>のトーチカほか

事業名：戦争遺跡詳細分布調査（宮古諸島）

所在地：宮古諸島に属する6市町村（平良市・城辺町・下地町・上野村  
・伊良部町・多良間村）

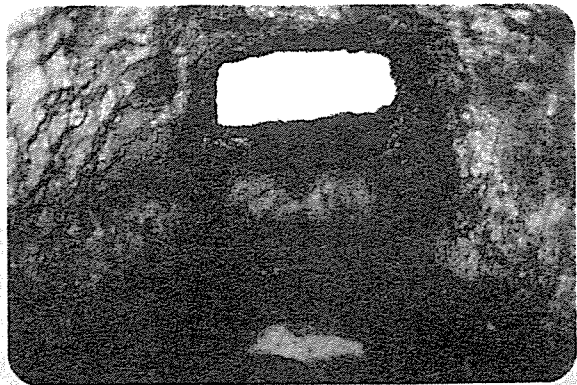
時代：近代

調査期間：2003年5月1日～2004年3月31日

調査内容：戦争遺跡詳細分布調査は近代以降の戦争（沖縄県においては沖縄戦）と、その遂行過程の中で、戦闘や事件の加害・被害に関わって沖縄県内で形成され、かつ現在に残された構造物・遺構の分布状況及び現況を確認することを目的としています。宮古諸島に属する6市町村内において、69ヶ所の遺跡が確認されました。主な調査として、①構造物・遺構の実測作業②地図への記入（分布図作成）③聞き取り調査等を実施しました。



上野村ピンフ嶺のトーチカ



上野村タカシカバーの  
機関銃陣地壕



上野村野原岳頂上の  
電波探知機壕



城辺町東保茶根の弾薬庫

ピンフ嶺のトーチカほか



平良市ヌスドゥガマ避難壕



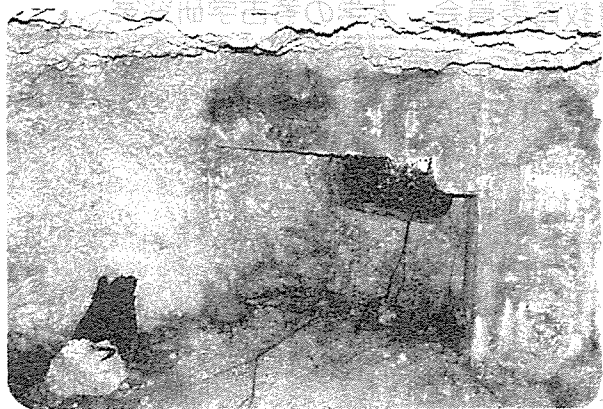
上野村野原岳北側壕内の弾痕



上野村大嶽城公園西側のトーチカ



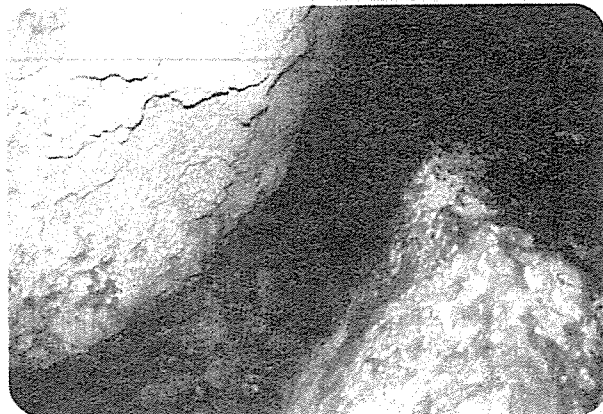
下地町東御嶽の銃座



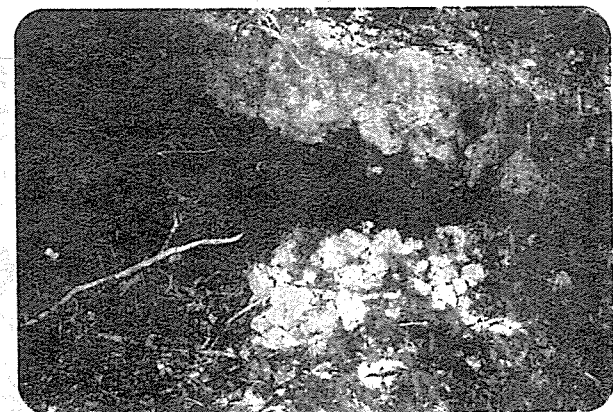
下地町山砲陣地壕



上野村タキグスバルの陣地壕



多良間村ウスヌカー（避難壕）



多良間村塩川御嶽のトンバラ（避難壕）



# 発掘調査のきっかけ（動機）とは

一概に発掘調査といっても、そのきっかけ（動機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的な手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査は、「学術発掘」とも呼ばれ、目的意識（研究テーマ）を持って取り組みます。それに対して行政機関（当埋蔵文化財センターや市町村教育委員会など）がおこなう発掘調査は「行政発掘」と呼ばれ、その動機や原因によって大きく二つに分けることができます。

ひとつは、先人の残した貴重な文化的遺産である遺跡（埋蔵文化財）を後世に伝えるため現地保存を目的とした確認調査があります。具体的には、国や県・市町村指定の史跡（文化財指定を受けた遺跡）の保存・活用を目的とした史跡整備に伴う遺構確認調査、保存を目的に遺跡の範囲や性格などを明らかにする遺跡範囲確認調査がそれに相当します。

もうひとつは、道路工事や土地改良などの諸開発に伴う記録保存を目的とした発掘調査で、開発のために消滅する遺跡を事前に発掘調査し、綿密な記録作成をおこないます。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりがありません。発掘調査がおこなわれた遺跡は二度と元に戻らないわけですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当埋蔵文化財センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

県内の発掘調査情報に関しては以下にお問い合わせください。

- 沖縄県立埋蔵文化財センター 調査課 TEL 098-835-8752
- 沖縄県教育庁文化課 記念物係 TEL 098-866-2731



発掘調査のようす







# 平成16年度発掘調査等予定一覧

調査事業名・遺跡名	所在地	調査目的・原因	予定時期
1 首里城跡（淑順門）発掘調査	那覇市	首里城跡整備に伴う確認調査	9月～2月
2 首里城跡（真珠道）発掘調査	那覇市	首里城公園整備に伴う確認調査	9月～1月
3 御茶屋御殿跡発掘調査	那覇市	遺構確認調査	8月
4 新城下原第二遺跡発掘調査	宜野湾市	施設建設に伴う緊急発掘調査	8月～9月
5 西長浜原遺跡発掘調査	今帰仁村	遺跡範囲確認調査	7月
6 潮原古墓群発掘調査	与那国町	空港拡張工事に伴う緊急発掘調査	12月～3月
7 基地内埋蔵文化財分布調査	宜野湾市	普天間飛行場内遺跡分布調査	6月～2月
8 沿岸地域遺跡分布調査	沖縄本島	沿岸地域における遺跡分布調査	6月～11月
9 戦争遺跡詳細分布調査	八重山	八重山諸島における戦争遺跡詳細分布調査	5月～ 11月
10 新大学院大学建設予定地内埋蔵文化財分布調査	恩納村	新大学院大学建設予定地内における埋蔵文化財分布調査	8月～ 10月



調  
069.9199  
Ok

平成16年度企画展「発掘調査速報展2004」

2004（平成16）年7月20日

編集 調査課記録・普及係

発行 沖縄県立埋蔵文化財センター

住所 西原町字上原193-7

電話 098-835-8752

FAX 098-835-8754



●休 所 日 毎週月曜日、国民の休日(こどもの日、文化の日を除く)  
 年末年始(12月28日～1月4日)、慰霊の日(6月23日)  
 ※祝日と月曜日が重なったときは、翌火曜日も休所

●交 通 ◇沖縄自動車道西原ICより 車7分  
 ◇市外線バスターミナル発97番  
 「琉大附属病院前」下車 徒歩1分

## 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原193-7  
 TEL 098-835-8752 FAX 098-835-8754  
<http://www.maizou-okinawa.gr.jp/>

埋文センター案内図

